



小さき群

救主降世2014年1月号 第91号

2014年度北海道教区宣教目標

『奉仕をする人は神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい』
ペテロの手紙一 4章11節

教会HP <http://www.obihiro-seikokai.com>

キリストがいるじゃないか

司祭 下澤 昌

教会のS君が単独世界一周旅行に旅立つことになりました。心の底から羨ましいと同時に、人生で大切なものを学んできて欲しいと願ってやみません。

彼に影響されて、自分が初めて外国に行った時のことを思い出しています。今でこそ多少は海外の事情には慣れましたが、初めての時はそう簡単ではありません。バックではないフリーの旅行はなおさらです。30年ほど前、農業者と方々と一緒にカナダの農家を訪問したのが最初です。当時、北アメリカに行くにはアラスカのアンカレッジを経由しました。その空港で生まれて初めて膝から下が丸見えのトイレの個室に入りました。これじゃあ出るものも出ないという感じです。次に経由したシカゴの空港では、カウボーイハットを被った、全員が同じ表情の大男の軍団に出会い、更に飛行機は五大湖上空を旋回して真冬のトロントに着陸しました。カナダ、オンタリオ州の広大さはベラボーで十勝の比ではありません。車に分乗してホストファミリーの家に辿り着くと、そこではもう日本語は全く通じない。英語に自信があるうがなからうが、生きるためには話さなくてはならないのです。

時差ボケによる強烈な頭痛に加え、立ちはだかったのは文化、習慣の違いです。まず道路を渡ろうとする時、日本と反対方向から走ってくる自動車に何度か轢かれそうになりました。レストランでは3人前くらいの量が出てくるし、家の中では部屋全体を照らす照明がありません。必要な時に手元を照らす仕組みです。食後のお皿は洗剤で洗いますが、すすぐことをせず、泡のついたまま放置して湯かします。農村地帯を車で走っていると、

たまに生臭いイヤな匂いが漂ってきます。これも、生まれて初めて体験するスカククの匂いでした。それらがすべて、大きな驚きなのです。

酪農はとてつもない規模で、30年前でも相当のオートメーション化が進んでいました。生産コストでは絶対に勝てないと痛感しました。しかし、全く異なるライフスタイルもありました。アーミッシュの農家を訪ねると、15世紀にヨーロッパから渡って来た当時と同じ環境を頑なに守り、信仰深い生活を続けています。彼らの多くはメノナイトの信徒ですが、教会センターに行くと、メノナイトの歴史と共に、信徒になるための条件が示されています。その中には、たとえ自分の家族が殺されようとしていても、それを防ぐために暴力的手段に訴えないという誓約が必要であるというのです。いわゆる非暴力平和主義の信仰です。この信仰ゆえに、彼らは昔から兵役を拒否し、カトリックからもプロテスタントからも過酷な迫害を受けたのでした。

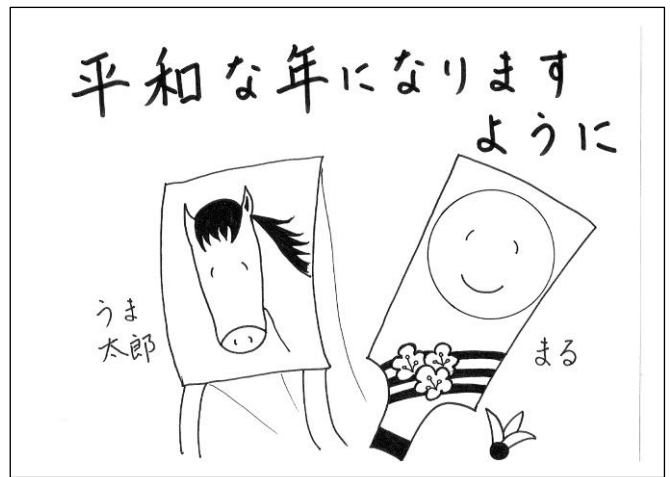
そこで私たちは考えます。今の日本で、電気を使わない、室町時代の文化水準を保っている人が生きていけるのだろうか、そういう多様性を認める寛容さが、私たちの社会にあるのだろうか。また、思想信条の自由が本当に認められ、すべての発言が等しく聞き入れられる度量を、私たちの社会は持っているのだろうか。

驚いてばかりいる間にカナダを去る日がやってきました。プラットホームなどない駅の線路のそばで、2週間、私の食と住を支えてくれた家庭の婦人が、目に涙を浮かべて私の肩を抱きました。これまた生まれて初めて経験した、赤の他人と、しかも外国人と抱き合っただけを惜しむ、いわゆるハグというやつです。ただでさえ英語が分からないのに、涙声ではますます分からない。しかし、聞き取れない
(次頁へ)

(前頁から)

言葉の中でただ一つ、Christ という言葉だけは分かりました。そうか、キリストがおられたではないか。あれも違う、これも違うと驚いていたけれど、違うことの真ん中にキリストはちゃんとおられたと、旅の最後に気づかされました。

そもそも人生が旅なのです。だから色々な違いに遭遇し、驚き、途方に暮れます。しかし互いの違いを認め合わなければ、旅は続けられません。そして、違いをまたいでキリストがおられる。それだけでこの旅は十分に安心なのです。



12月の教会委員会の報告・決議

1. 釜石での新たな支援活動の依頼によりオープン付の電子レンジを支援預り金から寄贈
2. 現在の説教壇、聖書台を撤去し、帯広聖公会の草創期に使用されていた聖書台(101年前)を復帰設置。
3. フィリピン台風被害支援献金への募金を開始
4. クリスマス献金の一部を“パレスチナの医療・教育のため”に献金。

告示

2014年度帯広聖公会受聖餐者総会を下記の通り開催します。現在受聖餐者の皆様にはご出席をお願いいたします。なお、やむを得ない事情で欠席される場合は、委任状をご提出ください。

日時：2014年1月26日礼拝後
 会場：帯広聖公会礼拝堂
 議題：教務およびその他の報告
 会計決算の件
 会計予算の件
 その他教会の宣教に関する件

レジオン

そこで、イエスが、「名は何というのか」とお尋ねになると、「名はレジオン。大勢だから」と言った。(マルコによる福音書5章9節)

数年前、家庭用の24時間入浴可能な循環式の風呂が、はやりました。レジオネラ症という病気も話題になりました。

この病気が知られたのは1976年のことです。アメリカのフィラデルフィアのホテルで大勢の宿泊客に肺炎が発生しました。221人の重症肺炎患者のうち29名が亡くなりました。このホテルでは在郷軍人会の大会が開催されていたので、それにちなんで「在郷軍人病」と名付けられました。調査の結果、原因となったのは、ホテル屋上の空調用の冷却塔内で繁殖した新種の菌でした。そのため、この新種の菌は、在郷軍人会を意味する legion (レジオン) にちなんで「レジオネラ菌」と命名されました。

この菌は通常土壌や水たまりなどで繁殖する細菌で、感染力はそれほど強くありません。もし、感染し、治療しなければ肺炎に進行し死に至ることもあります。おもにお年寄りや新生児など、抵抗力が弱い人に多く発生し、他の病気などで抵抗力の落ちている場合も発病しやすくなります。

在郷軍人とは、平時は民間にあつて生業につき、戦時・事変に際して、必要に応じ召集され国防に任ずる予備役・後備役・帰休兵や退役軍人などのことです。戦時に動員する大軍隊を常備しておくことは財政上制約があるので、平時は在郷軍人を一定期間訓練させて戦時に備えるのです。聖書にある昔のローマの大軍隊レジオンにちなんで legion (レジオン) といひます。

レジオネラ菌は土壌や水たまりに普通にある無害の菌ですが、条件(細菌の都会人が作り出した人口環境)がそろえば、病原菌として働き出すのは、在郷軍人と符合するところがあるのでしょうか。

ところで、身体の中にイエスによって追い出していたただかなくてはならないレジオンはないでしょうか。

(『聖書に見られる理科のことは』文芸社刊より)

季節の風

大いなる

神に生かされ

年新た

羽州

大いなる神は主イエス・キリストを言う。

◎2014年度北海道教区宣教目標

『奉仕をする人は神がお与えになった
力に応じて奉仕なさい』

ペテロの手紙一 4章11節

今月の教会歴から

◎顕現日

クリスマスの聖劇にはイエスさま、マリアにヨセフ、が登場します。天使の知らせを聞いた羊飼いや、3人の博士が登場します。しかし教会では博士らがやってくるのはクリスマスとは別の日です。それを顕現日と呼び、1月6日をその日と定めています。

羊飼いは多分ユダヤ人でしょう。しかし博士らは東方の国の外国人です。その異邦人が救世主であるイエスを礼拝しに来たわけですから福音宣教の原点がここにあります。

ちなみに博士らの名前は聖書には書かれていませんが、贈り物が黄金、乳香、没薬の3種類であることから3人いたのだらうと言われていました。

ここにひとつの物語があります。

四人目の博士

言い伝えによりますと、実は、もう一人の博士がこれまた星を見て、自分の医師としての職業も妻子も捨て、全財産を売り払って、高価な真珠を求め、それを捧げ物とすべく、ベツレヘムさして旅立っていたのだそうです。

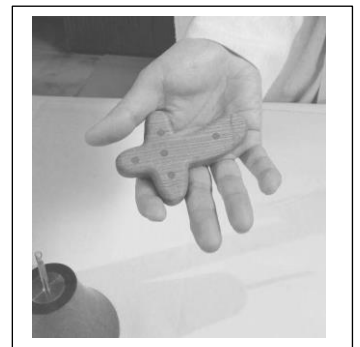
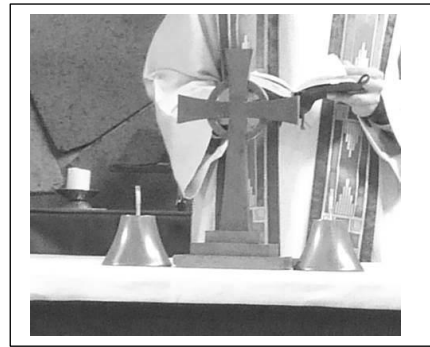
ところが、この四人目の博士、アルタバルは、道中で病人を見かけては手当てをしてやったりしているうちに、他の三人に遅れてしまい、ベツレヘムに着いた時には、イエスはすでにそこを去っていました。

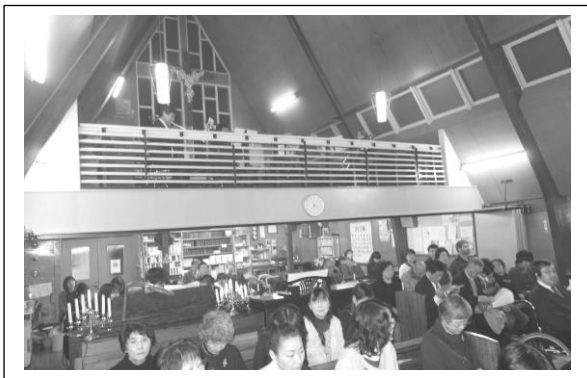
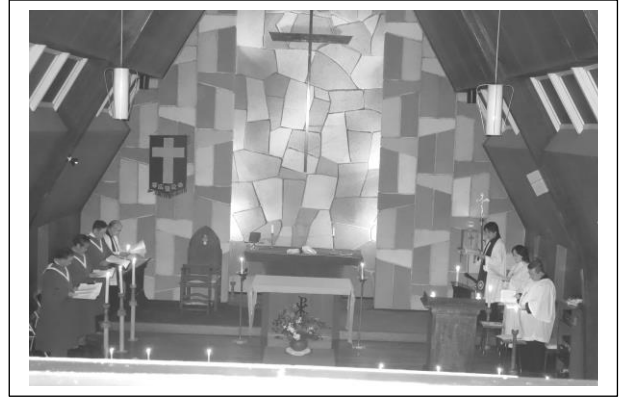
その日から、アルタバルの新たな旅が始まります。それはイエスを求める旅でしたが、その行く手にはいつも、彼を必要とする病人、または、生活の糧が得られずに悪事を働いている人々がいて、アルタバルは、その人たちに惜しみなく手を差しのべ、彼らと共に生活したのでした。またたく間に、三十数年が経ちました。

「イエスが十字架につけられる」この知らせに、すでに年老いたアルタバルは、これを最後の機会と立ち上がり、肌身離さず持っていた真珠を手でゴルゴダの丘を目指します。それなのに、何とということでしょう。その途中、またもや彼は一人の哀れな女と出会い彼女を助けるために、その真珠を手放してしまうのです。その間にイエスは十字架上で息を引きとります。

嘆き悲しむアルタバルに、イエスが現れ、優しく言うのでした。

「お前は私に逢えなかったというが、何度も何度も逢っていたのだよ。私の小さい兄弟姉妹の一人にしてくれたことは、他ならない私にしてくれたのだから。」





帯広交響楽団の皆様には毎年、聖歌演奏をして頂きまして感謝です。ありがとうございます。

聖公会探訪！！

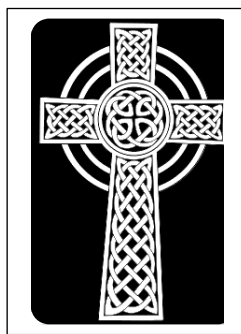
聖公会とは

キリスト教は、「イエス・キリストは救い主である」との信仰から始まっています。原始キリスト教時代のローマ帝国による弾圧と迫害、その結果によるローマ帝国の国教化によりキリスト教は一気に広まってきました。その後、ローマ帝国が西と東に分裂していった中で、神学的相違、かつ政治的又は言語からくる文化圏の違いから、ローマ・カトリック教会（西方教会）と正教会（東方教会）に分かれて今日まで続いています。

それが16世紀に起こった宗教改革期以降、ローマ・カトリック教会から分離した教会を総称して、プロテスタント（抗議する）教会と言われるようになりました。

英国でも、同様に国王とローマ教皇による王権と教皇権の争いが続いていたのですが、ヘンリー8世の時代に決定的にローマ・カトリック教会との分裂がおきました。その意味で、英国国教会を母体とする『聖公会』はプロテスタントと言えます。しかし『聖公会』は教会の歴史の中の悪弊を排除しつつ、聖書、伝統、理性を重んじる”中道主義”の教会と言えます。その意味で、ローマ・カトリック教会とプロテスタント教会とを結ぶ”Bridge Church（ブリッジ・チャーチ）”とも言え、「架け橋」の役割も持っています。現在、『日本聖公会』は日本のローマ・カトリック教会と同じ共通口語訳の『主の祈り』を正式に用いています。

ちなみに『聖公会』はその成り立ちからローマ・カトリック教会の影響と共に、ケルト文化を尊重し、それらの調和を大事にします。特に『聖公会』の幾つかある十字架の内、「ケルト十字」と言われるものは、十字架の背後に太陽のシンボルである円環が付いています。



世界の聖公会

世界中に『聖公会』は160ヶ国以上に広がり、7000万人近くの信者がいます。これらの教会はアングリカン・コミュニオンと呼ばれ、10年に一度、世界中の主教が集まり礼拝、神学、対話などを討議します。その中で、英国のカンタベリー大主教は全世界聖公会の精神的指導者ですが、ローマ教皇のような権威・組織はありません。ちなみに英国の元首戴冠式を執り行うのはこのカンタベリー大主教です。

日本の聖公会

明治初頭に、イギリス、アメリカなどから多数の宣教師が日本に派遣され、『日本聖公会』の基礎が築かれました。彼らは、宣教のみならず教育に関与することで日本の近代化に大きく貢献しました。

ちなみに、“黒船”で来航したペリー提督も初代のアメリカ総領事のハリスも共に聖公会の信徒でした。ハリスは特に敬虔な信徒で生涯独身を通したそうです。

北海道には、1874年（明治7年）に函館で初めての礼拝が行われた記録があり、北海道宣教の第一歩が印されました。

太平洋戦争の折は、『日本聖公会』にとって、最も悲しい暗黒の時代でありました。しかし、終戦後の復興は、創立時を凌ぐほどの援助がイギリス、アメリカ、カナダの聖公会から差し伸べられ、大きな助けとなりました。

現在は、北海道から沖縄まで11の教区と300余の教会があります。神学校や修道会を有しますが、教育や社会福祉の分野での働きもあります。教育では、立教学院、立教女学院、平安女学院、聖路加看護大学など約40の学校、約150の保育園、幼稚園。また、エリザベス・サンダース・ホームや滝乃川学園などの児童福祉・障害者福祉施設や数多くの高齢者福祉施設が社会福祉事業に寄与しています。医療機関には聖路加国際病院や聖バルナバ病院、新生病院なども『日本聖公会』と深く関連しています。また、山梨県の清里には、「キープ協会」というモデル農村コミュニティが戦後直ぐに設立され、戦後農業のリーダーとも言うべき働きをしてきました。

帯広の聖公会

十勝地方の入植者の中には聖公会の信徒もいて、1895年（明治28年）に帯広聖公会が創立されました。来年、2015年には創立120年を迎えますが、帯広で最初の教会としての影響は大きなものがあります。

『聖公会探訪』として、聖公会の様々なことをお伝えしたいと思っています。
今回は、若くして逝ったアイヌの女性“知里幸恵”を取り上げて見たいと思います。

2014年1月 主日礼拝の役割分担と聖書日課、聖歌の表

	5日 緑 降誕後第2主日	12日 緑 顕現後第1主日 主イエス洗礼の日	19日 緑 顕現後第2主日	26日 緑 顕現後第3主日
司式	下澤司祭	下澤司祭	植松主教	下澤司祭
説教	下澤司祭	下澤司祭	植松主教	下澤司祭
補式	寺本司祭	寺本司祭	下澤司祭・寺本司祭	寺本司祭
信徒奉事者	山本雅之	大村倫子	山本雅之	尾関敏明
奏楽	下澤依子	寺本敦子・小貫耕喜	大野耕一	尾関真理
アッシャー	木末幸永	尾関真理	小貫耕喜	大野佳子
オルター	飯塚幸子	夏堀寿美子	木末幸永	小貫睦子
日曜当番	船津ともえ	船津房子	高橋献一	寺本敦子
旧約聖書	エレミヤ書 31:7-14 高橋献一	イザヤ書 42:1-9 橋本知樹	イザヤ書 49:1-7 野口 環	アモス書 3:1-8 船津ともえ
詩篇	84	29	40:1-10	146
使徒書	エフェソ 1:3-6, 15-19 山本雅之	使徒言行録 10:34-38 大村倫子	Iコリント 1:1-9 山本雅之	Iコリント 1:10-17 尾関敏明
福音書	マタイによる福音書 2:13-15, 19-23	マタイによる福音書 3:13-17	ヨハネによる福音書 1:29-41	マタイによる福音書 4:12-23
入堂	96	306	113	116
福音	441	118	458	442
奉献	357	195	355	335
陪餐	356	334	336	471
退堂	82	116	112	111
備考	誕生会	教会委員会	主教巡回日	受聖餐者総会

説教ダイジェスト

司祭こるべ

2013年12月24日 クリスマスイブ礼拝

「大地は主を知る知識で満たされる」 イザヤ書11章9節

私の母方の実家は、かまくらで有名な秋田県横手市の近くにあります。秋田弁は難解ですがほのぼのとしています。曖昧な音が多く厳密な表現には向かない反面、喧嘩をしたり、相手を批判したりするのも向いていない言葉です。非常に包容力があり、女性も自分のことをオレと言います。「標準語」では粗暴な表現ですが、秋田弁で言うオレという表現は、飾らずに自分を相手の前に差し出す人の良さが滲み出ています。また、夫婦は人前でも自分の伴侶のことを「オレの母さん」、「オレの父さん」と言います。「とおさん」、「かあさん」だけでもいいのに、わざわざ「オレの」と付けるところに愛情がこもっています。子どもの頃から親が「オレの母さん」、「オレの父さん」と呼び合っている家庭で、子どもがどう育つかは想像に難くないでしょう。

では私たちは普段、どういう言葉の中で生き、どういう言葉の影響を受けているのでしょうか。そして、周りの人に、どういう言葉を聞かせているのでしょうか。イザヤ書11章は、「平和の王」という見出しで始まり、キリストの誕生をほのめかします。この平和の王が支配する時には、「大地は主を知る知識で満たされる」。神の言葉が全地を覆い尽くし、その言葉によってあらゆるものが養われる世界です。

クリスマスは、神のことが地球全体を覆って、そこに住む者がその言葉によって養われることを祝います。私たちがキリストという言葉を受け、味わい、栄養を頂き、そして成長していることを共に祝うのです。いくなれば、秋田弁ならぬキリスト弁の豊かさの中に、私たちは生かされているのです。

人生の様々な場面で私たちが必要とするのは、自分を励まし、勢いを与えてくれる優しく力に満ちた言葉です。そういう言葉をいつも身近に聴きながら生きていくと、わたしたちは例え挫折することであっても、再び立ち上がることができます。そのような掛け替えのない力となる言葉が、今日生まれ、私たちに与えられたことをご一緒に喜びましょう。

以上